



松庵防災ニュース

第11号 2026年2月発行
松庵町会防災会



～災害時には「在宅避難」～

地震発生時は、従来の身の安全確保と火の始末後の「避難所への避難」から、自宅の安全が確保され居住の継続が可能な場合は「在宅での避難」へという形に変化しつつあります。少しでも快適な在宅避難ができるように日ごろからの備え(自助)は大切です。

富士山が噴火したらどうなる？！

西荻地域区民センター協議会主催 防災シンポジウム 2026

日時：1月23日(金) 場所：西荻地域区民センター

テーマ：「富士山は噴火します！…降灰被害に備えて」

第一部 講演

講師： 山梨県富士山科学研究所 吉本 充弘氏
東京都総合防災部防災計画課 中西 勇太氏

【講演内容(要点)】

- 富士山は約30年周期で噴火してきましたが、1707年の宝永噴火以降、約300年間噴火していません。
- 降灰時の基本は在宅避難。地震と違い対応準備の時間があり、大きなけがは少ないものの、外出は困難になります。
- 東京都は富士山から100km以上離れているため噴石の心配はありませんが、降灰の影響はあります。
- 降灰が発生すると、電車や車は動けなくなり、物流が停まります。
- 灰は水に流さず、ビニール袋に集め収集開始まで保管が必要です。



第二部 パネルディスカッション

松庵町会防災担当の仲村さんが自治会関係者として登壇され、防災有識者の方々と第一部講演を基に活発な意見交換を行いました。杉並区では約260の企業と提携し、避難移動手段や物資提供の協力を得る仕組みがあるそうです。

仲村さんの「**情報を取り入れ、正しく恐れる**」という言葉が印象的でした。

>裏面は情報編

発行責任者 松庵町会防災会会長 出田 清

情報編(保存版)

富士山噴火と降灰への備え

- 富士山は 1707 年の宝永噴火以降、約 300 年間噴火していません。
- 噴火時、東京都は噴石の影響はありませんが降灰があります。
- 降灰予測量：6 時間で約 2cm / 2 週間で約 2~10cm



降灰可能性マップ

出典 富士山ハザードマップ検討委員会報告書より

降灰時の行動指針

- 基本行動：在宅避難
- 外出は困難、交通機関は停止
- 車はスリップ・放置車両により交通麻痺が発生 → 降灰時には車の使用を控える

生活への影響と備蓄

- 物流停止の可能性
- 最低 3 日~2 週間分の食料備蓄が必要



健康・生活対策

- ゴーグル(花粉症メガネ可)・マスクの準備
- 灰は濡れると重くなるので、水に流さず袋詰めして保管
- 幹線道路：行政が除灰 / 生活道路：地域住民が除灰(共助)
- 灰は下水道に流さない(下水管詰まり防止)



ぼうし・メガネ・マスク



まとめ

- 降灰災害は地震・水害と比べ、けがは少ない
- 気象庁などの情報を基に行動判断が必要
- 長期物流停止に備えた日常備蓄の重要性
- 降灰後の除灰は自助・共助が不可欠



《シンポジウムの様子》

日頃の災害への備えの延長線上に降灰対策があります

★詳しい情報は以下の東京都のサイトからご確認下さい

 東京都 Tokyo 富士山降灰 特設サイト

<https://www.fujisan-kouhai.metro.tokyo.lg.jp/>

